

コラム “ティータイム”

小 野 威

今年は激動の1年であったのではないのでしょうか？世界の情勢が大きく変化し始めた年でもあった様に思われます。6月にはイギリスではEU残留を選択するための国民投票がキャメロン首相の下で実施されました。キャメロン首相はイギリス国民が自身の信任とEU残留を選択するとの自信から国民投票に踏み切りました。全世界がイギリスは将来のことを考えEU残留を選択するものと思っておりましたが、大方の予想を覆してイギリス国民はEU離脱を選択しました。この結果に全世界がビックリし、世界経済の先行き不安から経済の混乱や株価の暴落を引き起こしました。この結果はイギリス国民（特に職を失っている年配者や声を上げないが現状に不満を持っている人々）の多くが現状に嫌気がしていた結果でしょう。この結果がイギリスの将来にどのような影響をもたらすかは解かりませんが・・・また、11月に実施されたアメリカの大統領選挙においてはそれぞれの政党の指名選挙で女性初の大統領を目指したヒラリー・クリントン氏と実業家で過激発言をしている嫌われ者とのレッテルを貼られたドナルド・トランプ氏が指名され大統領選挙に臨みました。アメリカ国内をはじめ全世界はクリントン氏が大統領になると予想し、トランプ氏が大統領になるとは夢にも思われていませんでした。事前の世論調査でもクリントン氏の優勢が伝えられており、女性の大統領の誕生は既成の事実のようでしたが・・・結果はアメリカの大統領選挙のシステムから投票率では上回っていたクリントン氏が敗北しトランプ氏が次期大統領に当選しました。多くの予想を覆しトランプ氏が勝利したのは現状に多くの不満を持っている人々が予想した以上に多く存在し、その人々が現状の不満からトランプ氏に投票しクリントン氏であれば現状が全く変わらないと思ったのでしょうかね。多くの評論家・アナリスト？がトランプ氏が大統領になると世界の政治・経済が混乱し株価の暴落から大不況になる予想しておりトランプ氏の当選が伝えられると経済の混乱が予想されることから世界の株価は暴落しましたが、この現象は1日のみでトランプ氏の新たな視点での考え方等から現状の停滞感が打破されるのではとの期待感もあり株価も大きく上昇することになりました。

イギリスの国民投票とアメリカの大統領選挙の結果から、現状に不満を持っている人々が多く存在し、何か流れを変えたいとの欲求が非常に多く存在しているものと思われます。この何かを変えたいとの欲求を持っている人々は声を

上げることが出来ない人々が多く、この流れ世界中に蔓延しているのではないのでしょうか。イギリス国民とアメリカ国民の選択が良い方向に向かうように期待したいものですが、来年にはEUでの大きな選択選挙がありますので目を話すことが出来ないものと思われます。

日本では今回の世界の動きより早くに現状のあり方に疑問を持ち、現状を打破するために自民党の政治手法等に“ノー”を突き付けた時があり、当時の民主党に政権を委ね現状の打破と新しい流れを期待した時がありましたが、民主党は烏合の衆・素人の集まり？で政権を担当・運営する能力も無く期待はずれに終わってしまい、民主党政権時代は日本全体が停滞期になってしまいました。結果としてこの自民党から民主党への政権交代の選択は全く間違いであったと思わざるを得なく、国民から既存を打破し新しい変化を求める力を失わせてしまったように思われます。これらの経験から日本の現状においては政権交代を選択する因子は少なくなっていると思われます。今後将来政権を委ねることが出来るすばらしい政党が出現することがあればよいかと思われますが・・・

関東甲信越計量団体連絡協議会が10年ぶりに神奈川県が主催で10月19日に箱根で開催され、各都県から賞賛の声をいただいたことは喜ばしいことでした。この協議会においても過去を含め様々な提案議題が提出されておりますが・・・世界的に現状に対して疑問を持つ流れが起こってきておりますが、計量の世界でも変化をもたらす必要があるのではないのでしょうか。このためには計量士の意識改革や幅広い知識を得た活躍を期待しておりますが・・・皆さんはいかがお考えですか？

(第43号：2016年12月19日)